

# 教務だより

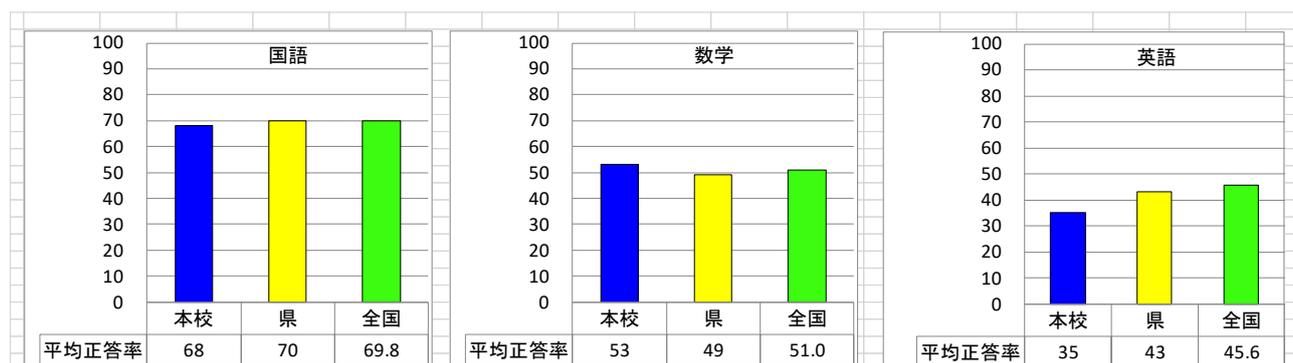
## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果

全国学力・学習状況調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に、

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

ことを目的として、文部科学省が、学校の設置管理者である都道府県教育委員会、市町村教育委員会等の協力を得て実施するものです。

本年度は、平均正答率(%)が次のような結果(本校並びに県平均は、小数第1位を四捨五入した数値の公表)でした。



国語の平均正答率は68% (全国比-1.8pt)、数学の平均正答率は53% (全国比+2.0pt) 英語の平均正答率は35% (全国比-10.6pt) という結果となっている。

成果は、数学が全国平均を上回っていること。とりわけ、「累積度数の意味を理解している (全国比+24.5pt)」「問題解決の方法を数学的に説明する (全国比+33.7pt)」という知識技能を問う設問について、全国平均を大きく上回っている。

課題は、国語と英語が全国平均を下回ったことである。特に【知識・技能】の正答率に全国平均との大きな差が見られたため、改善に努めたい。

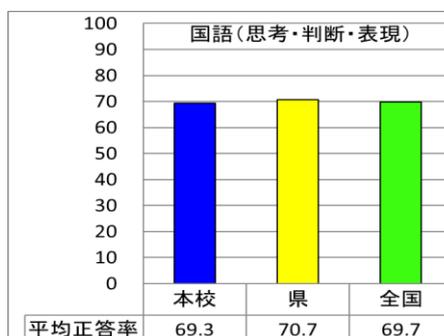
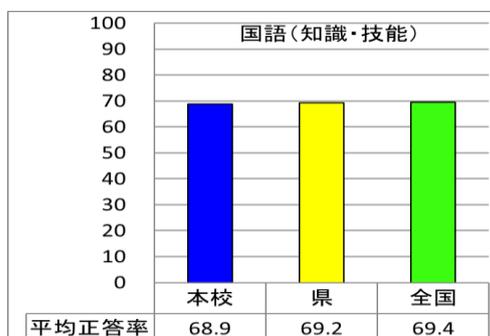
全国学力・学習状況調査の問題は、学習内容に係る知識・技能を活用する力を問う問題です。近年、公立高校入試の問題の傾向は以前までのものと大きく変わってきています。具体的には、知識の習得だけでは対応できず、知識を組み合わせる考え、自分の考えをまとめて文章等で表現する力(活用力)が求められる問題が多く出題されています。

2学期のスタートにあたって、「基礎・基本」を身につけた上で、それを活用して新たな価値を創造し、「未知の状況に対応できる」深い学びとなる授業づくりを、全教職員で確認して取り組んでいきます。

# 全国学力学習状況調査 一指導方法等の改善計画について

## 【国語科】

平均正答率 68% (全国 69.8%)



### 重点課題

【課題1】思考・判断・表現『相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものとして適切なものを選択する』の正答率が 52.9pt (全国比-23.7pt)

【課題2】知識・判断・表現『二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する』の正答率が 47.1pt (全国比-15.9pt)

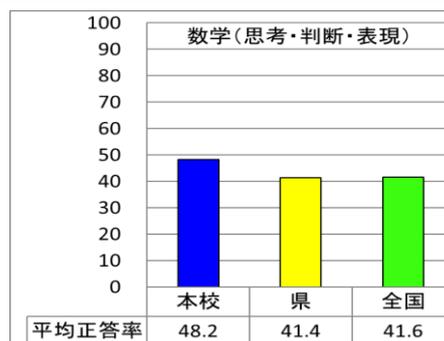
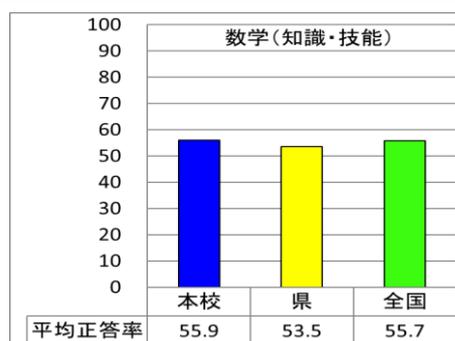
### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法

【改善1】対話の場面を模したやりとりについて、実社会でも適切な表現を用いてやりとりができるよう、授業でロールプレイなどを取り入れて力を育てていきたい。

【改善2】複数の文章を比較して読む力が必要である。並行読書や読み比べを通して、より文章や表現を吟味しながら読むことができるよう工夫したい。

## 【数学科】

平均正答率 53% (全国 51.0%)



### 重点課題

【課題1】知識・技能『自然数の意味を理解しているかどうかをみる』(-5, 0, 3, 4, 7, 9 の中から自然数をすべて選ぶ)の正答率が 17.6% (全国比-28.5pt)

【課題2】知識・技能『反比例の意味を理解しているかどうかをみる』の正答率が 35.3% (全国比-7.5pt)

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法

【改善1】用語の意味を一つずつ確認したり、数学用語を用いた説明をしたりすることで、基礎的な数学力の定着を図る。

【改善2】2学期に扱う『関数  $y=ax^2$ 』で、既習の関数との比較しながら、比例・反比例・一次関数を振り返りながら、高校で学習する二次関数へと繋げていきたい。

## 【英語】

平均正答率 35% (全国 45.6%)																	
<table border="1"> <caption>英語(知識・技能)</caption> <thead> <tr> <th>平均正答率</th> <th>本校</th> <th>県</th> <th>全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>35.3</td> <td>48.7</td> <td>51.5</td> </tr> </tbody> </table>	平均正答率	本校	県	全国		35.3	48.7	51.5	<table border="1"> <caption>英語(思考・判断・表現)</caption> <thead> <tr> <th>平均正答率</th> <th>本校</th> <th>県</th> <th>全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>33.8</td> <td>36.9</td> <td>38.8</td> </tr> </tbody> </table>	平均正答率	本校	県	全国		33.8	36.9	38.8
平均正答率	本校	県	全国														
	35.3	48.7	51.5														
平均正答率	本校	県	全国														
	33.8	36.9	38.8														
重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法																
<p><b>【課題1】</b> 知識・技能「聞くこと」『ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する』の正答率が35.3pt (全国比 - 43.7pt)</p> <p><b>【課題2】</b> 知識・技能「読むこと」『事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する』の正答率が41.2pt (全国比 - 23.3pt)</p>	<p><b>【改善1】</b> 今後、普段の授業から英語を聞く活動を多く仕組むとともに、語彙を増やすことで、全ての英文は理解できなくても1つ1つの単語から内容を推測できるようにしていく。</p> <p><b>【改善2】</b> 授業で長文を読む際に、内容を理解しながら読み進めていくことはもちろんだが、「事実」が書かれている箇所と「考え」が書かれている箇所について意図的に発問するなど、視点をもって読み取らせる指導の工夫を図る。</p>																

今回の受検教科である国語・数学・英語のみならず、すべての教科で学校活動全体を通して取り組んでいる、「未知の状況に対応できる生徒の育成」を、「ジャンプの学び」(「総合的な学習の時間」をはじめとする、教科書レベルより上の課題を解決させるために、質の高い問いや課題を設定したり、質の高い学びを実現させたりする取組)を実施している。これを研究主題として掲げ、学校全体で取り組むことにより、難易度の高い問題や答えが一つではない問いに直面した際に、生徒が主体性をもって授業にのぞむことができている。

『授業では、わからないことや疑問に思ったことをグループ内で聴き合うことで、考えを深めています。』という生徒アンケートの肯定的回答は、90%を超えている。

前年度の標準学力調査後により明らかになった、課題の改善に向けて、基礎基本の定着を図ってきた。具体的には、小テストや小プリントで理解度を把握し、習熟度別に個に応じた手立てを講じた。このことも、今回の結果に、成果として表われていると考える。